

# 「わかりあえる。知ろうとすれば」

～南アフリカ派遣体験から見えた  
分断を乗り越えるためのヒント～

平成21～23年度

南アフリカ共和国ヨハネスブルグ日本人学校派遣

音更町立緑陽台小学校

教諭 中島緑郎

# ヨハネスブルグ日本人学校での実践 概要

年度	現地スタッフとの交流	SOWETO教会聖歌隊および周辺住民との交流	SOWETOオランダ孤児院との交流
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の遊びを教えてください</li> <li>・学習発表会の全校合唱で児童と合唱に参加してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会へ初めて招聘</li> <li>・個人的に通い、友人ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大使館職員の紹介で教員研修の一環として訪問(教員のみ)</li> </ul>
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽授業の発表に招待</li> <li>・学習発表会で劇に出演してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会で児童生徒との合唱を企画、週末に通って練習</li> <li>・ゲストティーチャーとして招き、インタビュー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人学校史上初めて、児童生徒が黒人居住区を訪問し交流</li> <li>・孤児院の子たちを日本人学校に招待し交流</li> </ul>
平成23年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の授業にゲストティーチャーとして招く(引き継ぎ)</li> <li>・教師数名で訪問、音楽で交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回孤児院を訪問、交流</li> <li>・日本人学校で交流、PTAがカレーふるまう</li> </ul>

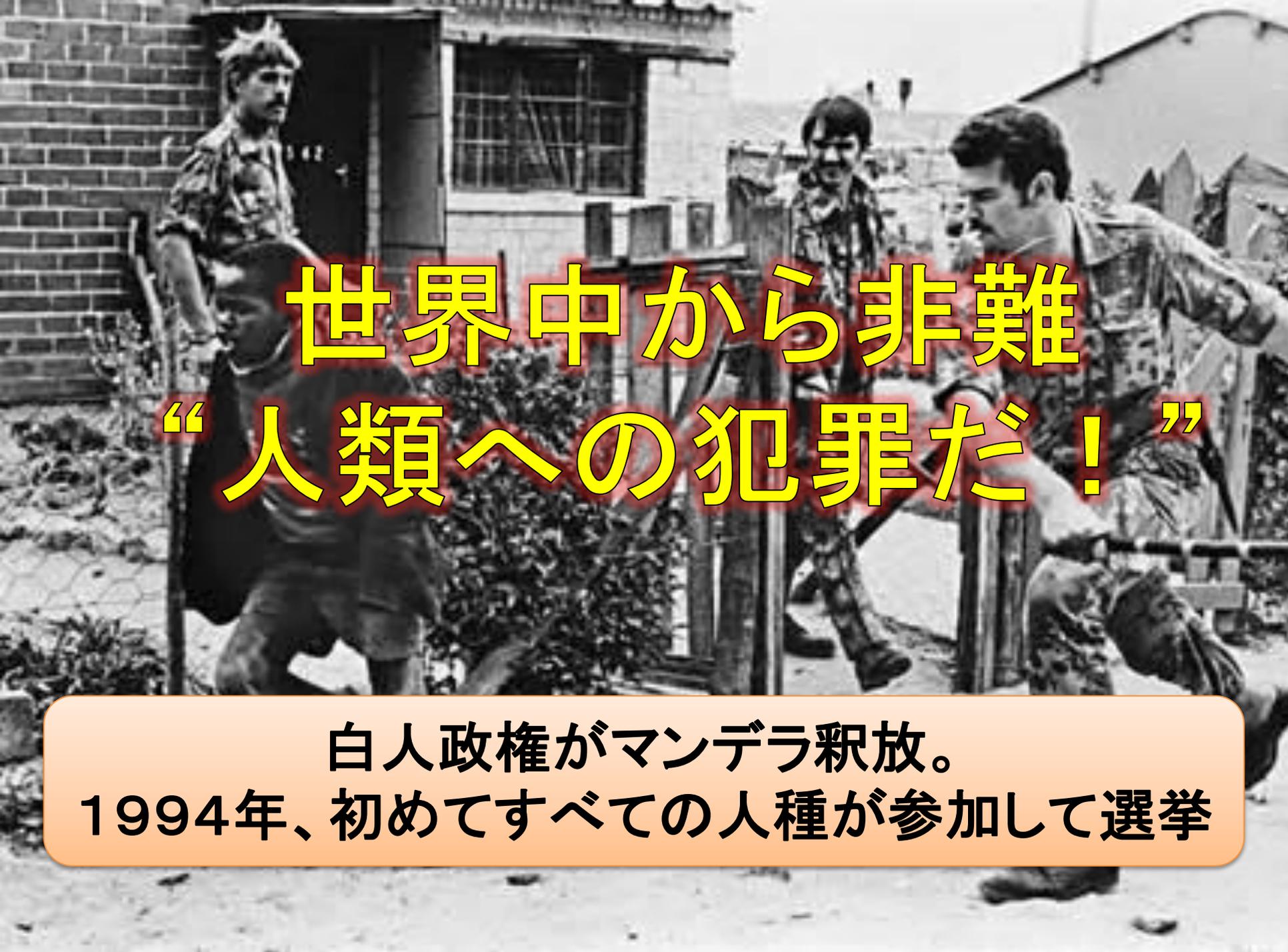
# 南アフリカ・過去の過ち

## アパルトヘイト (apartheid)

『別々の文化を持つものだから

英語では “**part system**”  
＝お互いがお互いを見ずに暮らせる仕組み

白人は良心の呵責から目を背けて暮らせる



**世界中から非難**  
**“人類への犯罪だ！”**

白人政権がマンデラ釈放。  
1994年、初めてすべての人種が参加して選挙

# 1994年、ネルソン・マンデラが大統領に

“彼らを赦そう。白人は違いを受け入れられなかった。しかし私たち黒人にはできる。”

→武力ではなく、“赦す”という心で新国家建設

**あやまちを人間性によって正す**

今までの恨み・憎しみを乗り越えて、  
すべての黒人が復讐の連鎖を断ち切る英断

→『黒人はなぜそれができたのか？』

現地の人と交流するうちに、わかってきた“大切なこと”

# ネルソン・マンデラのすごさ

でも、自分たちを虐待してきた白人たちを赦し一緒に国をつくらうとできたのはなぜ？

"Education is the most powerful weapon which you can use to change the world."

- Nelson Mandela

実際に南アの黒人と触れ合って納得  
「この人たちだからこそ、できた！」

# 南アフリカは「虹の国」

## Rainbow Nation

ネルソン・マンデラ

「虹の色は混ぜれば汚れた色になる。  
一つ一つが自分の色をしっかりと持っ  
てこそ、美しい。」



# 《自分で感じる“南アフリカ”を求めて》

## ①現地スタッフとの交流



現地スタッフに学習発表会への参加をお願い



経済的には貧しいが、明るく楽しい人たち  
豊かで寛容な心を持った人たち

“そのよさを、日本人学校の子どもたちにもっともっとわかってもらいたい！”

## ② SOWETOから聖歌隊を招聘（芸術鑑賞会）

### SOuth WEst TOwnship

・旧黒人居住区で、外国人の立ち入りは大変危険といわれている場所

現地スタッフの一人が聖歌隊のメンバーだったことから、交渉で何度も訪問することに・・・



一見、貧しくて危険そうなSOWETO

でもそこに住む人たちは・・・

『自分で体験しなければ  
わからないことがある！』  
と実感

現地理解教育の本質

『人として学ぶべきもの・日本人が思い出すべきものがある』

- ・寛容さ ・表裏のなさ ・豊かな表情
- ・地域のつながり ・生きることへの真剣さ・・・

『日本人学校の子どもたちと南アフリカの人たちとの架け橋になりたい。』

何度もSOWETOに通って交流し、信頼関係を築こう







THE WAVE IS FOREVER  
PACIFIC ISLANDS  
THE THING SHE BELIEVES  
FROM "THE WAVE IS FOREVER"

Aloha  
Stitch  
CHUCKY

『これほど豊かな表情・歌声・人間性を、日本の子どもたちにもっと知ってほしい。異文化にも積極的に飛び込んでほしい。』

→ **SOWETO・オルランド孤児院** の子どもたちとの交流活動へつながっていくことに・・・

- ・日本人学校の子たちがオルランドを訪問
- ・孤児院の子たちを日本人学校に招待
- ・私の帰国後も交流が続いている

### ③ SOWETOの孤児院との交流

- 大使館の書記官に、日本とのつながりのある『Orland Children's Home(オルランド孤児院)』を紹介していただく
  - SOWETOを支援する志を知る
- 同僚教師と毎週末通って信頼作り
- 日本人学校の子どもたちに、南アフリカの現状をありのまま伝えたい
- 受け入れてくれるかわからない相手に、積極的に関わろうとする態度を育てたい
  - 治安への懸念から、塀の外に出ない日本人

交流1年目、黒人やSOWETOや孤児に**恐れの気持ち**を抱きながら交流がスタート。

『もし拒否されても、  
**自分から勇気をもって**働きかけ続けよう。』

- ・自分から相手の心に飛びこむ勇気
- ・わかりあう喜び

→この国なら、あの人たちとなら体験できる！

自分自身の体験から感じた“実感”



毛火愛

毛火愛

多出華

多出華

若樂

貝爾

始

理

料

料

令

壯

BRISKNESS



『大切なもの』や『好きな言葉』

Love, Mother, Study...

そして『未来』についても話し合った。

“学校を卒業すること”  
“人の役に立つ仕事につくこと”

彼らと自分は違うけれど、  
大事なことはアフリカでも同じなんだ、と実感。





自分から相手の心をノックする勇気を持てば、日本人学校の子どもとSOWETOの孤児も心を通わす感動を共有できた。



マンデラの言葉

『知らないから恐れるのだ。  
知ろうとしないから分かり合えないのだ。』

孤児たちとの2年間の交流を通じ

- ・お互いの未来について
- ・幸せについて

一緒に考え、ともに思い合う本当の友達になれた!

## 『わかり合える 知ろうとすれば』

将来海外に出て日本をリードする立場になる可能性が高い在外教育施設の子どもたちにとって、  
真の国際人になるための重要な体験

帰国後の学級経営に  
グローバル視点を

今、きみからひろがる

世界平和！

わかり合える、知ろうとすれば